

安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現



## NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

発行人 梶 宏

事務所 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809

TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp


<https://npokaigo.or.jp/>

## 2023年度通常総会が開催されました

～1年間で9名が新加入！ 会員主体の会活動をめざして！～



コロナ禍も落ち着きマスク姿も少なくなった去る5月20日、通常総会がひと・まち交流館京都で開催され、梶理事長の挨拶で始まった。「ウクライナでの戦争が長引き心を痛めている。私達は何かがあっても平和を守らないとだめ、また市民の暮らしを守り市民の声をきちんと聞く社会が大切だ。そのような社会を作っていきたい。本会を立ち上げて23年。全国的にも珍しい市民活動の団体と言われている。私も年齢を重ねているが皆様とともに今年度も頑張っていきたい」。

議長に貝沼三枝子さんが選出され、「不慣れと言うよりいやなんです、皆様のご協力のもと議長を務めます」とウイットに富んだ明るい挨拶で会場の空気が和む。現在会員数91名のうち出席者37名、委任状39名計76名、定足数（会員1/2以上）に達し総会は成立。

議事に従って、2022年度の事業報告が各担当理事から簡潔に報告された。オンブズマン養成事業と地域包括支援センター実態調査の実施（中川）、介護・福祉サービス第三者評価事業（吉川）、広報・啓発事業（冬木）、調査・研究事業（萩原）、会の運営・事務局（正木）、続いて2022年度の決算（正木）、会計監査報告（齋藤、高瀬）があった。特筆すべきこととして第三者評価事業ではコロナ禍で調査活動が一時休止したが、最終的には想定件数より多い25件を

受託し当会の財政基盤に貢献することができたこと。また主軸の笠原担当理事の病気休養という大ピンチをくぐり抜け、会の結束の強さで乗り越えることができたこと。さらに事務局からは、昨年度は新入会員9名で会員が増えたこと、財政基盤の強化ができたこと等の報告があり、すべての案件は承認された。

次いで2023年度の事業計画、予算についての審議に入り、各担当理事からそれぞれ提案された。特に事務局からは会員主体の活動、会の中長期計画の策定、事務局体制の再構築などの提案があり、新年度予算案も含めて承認された。

最後に任期満了に伴う役員改選が承認され、新理事となった梶政彦さんの挨拶があった。また、会の事務を担当した梶理可さんの退職の報告があり、花束で全員からの感謝の意を表した。議長から何か意見はないかとの質問に対し、小栗会員から第三者評価事業の成果を活かす提案があった。最後に副理事長（中川）が閉会の言葉を述べて終了した。1時間余ではあったが、各理事の報告や会場からの提案など新年度に対する意気込みが感じられる、充実した総会を終えることが出来た。

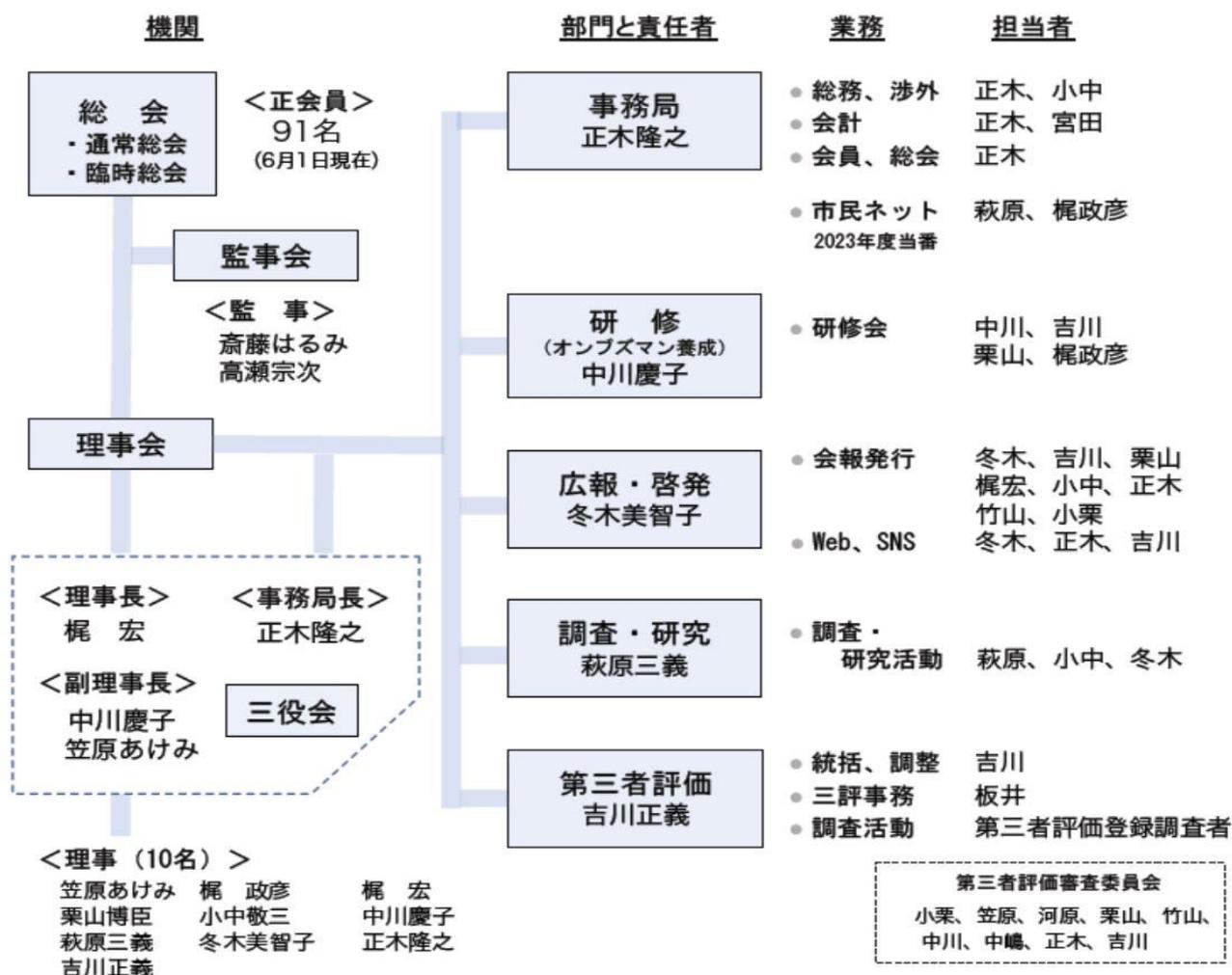
総会後の記念講演は69名の方が参加してくださり大盛会だった。そのあと、4年ぶりの懇親会も大いに盛り上がった。（中川慶子 記）

### 目次

2023年度通常総会が開催されました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2023年度の組織・業務担当図、就任・退任挨拶、今後の事務局体制・・・・・・・・	2
どこから来て、どこへ行くのか？ ～かかわる会の組織と事業を考える試み～	3
5月総会記念講演報告、参加者の感想・意見より、4年ぶりの懇親会、会員募集	4～5
特集:第三者評価事業を振り返る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6～7
梶理事長が「京都市長物語」を出版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
4月研修会報告 デイサービス晴耕雨読舎見学・・・・・・・・・・・・・・・・	8
シリーズ「私の介護体験」、6月・7月研修会案内・・・・・・・・・・・・・・・・	9
会員リレーえっせい、シルバー川柳、新入会員紹介、編集後記	10

## きょうと介護保険にかかわる会 組織・業務担当図

(2023年6月1日 理事会決定)



## 理事就任あいさつ 梶 政彦

介護保険ができたとき、「介護の社会化」の始まりだと前向きにとらえた。「かかわる会」をつくると聞いた時は新鮮な驚きを感じつつも、まだどこか疑いの目を持っていた。当事者感がなかったこともある。それから25年。状況が大きく変わり、私は介護保険の当事者となり、せっかく育ってきた「介護の社会化」が水泡に帰す危機感を直に感じる状況になった。少しでも、この状況を良くする力添えができればと思う。

## 退任あいさつ 梶 理可

総会の20日をもちまして退職することとなりました。在籍中は至らない点多々ございましたが皆様のご指導・ご協力をいただき、無事に退任の日を迎えることができました。心より感謝もうしあげます。当会で経験したことや学んだことを活かしてこれからも精進してまいります。最後になりましたが、当会の発展と皆様のさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

## &lt;今後の事務局体制&gt;

事務を一手に引き受けてくれていた梶理可さんが退職されました。会の活動に支障が出ないよう、今後は、実務の部門担当制の強化と事務のシステム化で効率のよい体制を築いていきたいと思っています。会員のみなさんが、ふらっと遊びに来たくなるような、開かれた事務局をめざします。  
(事務局)

# どこから来て、どこへ行くのか？

～ かかわる会の組織と事業を考える試み ～



## ■思ってたんと違う

むかし、あるお笑いコンビが、M1で負けて「思ってたんと違う～」と叫んでいたことがあります。そやな～、人生には「思ってたんと違う」ことってあるよな～と共感して見ていました。映画やレストランの期待外れは諦めもつきますが、そう簡単に諦められないものもあります。明るい未来を約束していたはずの原発の惨状は、「思ってたんと違う」の代表のような存在ですが、実体がわかってても簡単に方針転換できず、旧来のやり方にしがみつこうとする人がたくさんいます。

介護保険制度は2000年に始まりましたが今あちこちで「思ってたんと違う」という声を聞きます。

介護保険制度の誕生と同時に生まれたかかわる会は、発足当初のミッションを今も守り続けていますが、制度の変節が明らかになった今、活動方針も変える必要があるのではないかとそんな疑問を持ちました。理想の制度なら、それを支え広める活動だけでいいのですが、問題があるなら、それを正して「思ってたもん」に近づけていく機能とパワーが必要です。

## ■ワークショップ形式で話し合いました

というわけで、今年の1月～3月、かかわる会の理事会では、事業計画の策定に合わせて、枝葉の話だけではなく、少し根っこのお話をしてみることにしました。テーマは次のとおりです。

1月：「組織の課題とミッション」

2月：「よりよい組織と事業とは？」（※右上図）

3月：「アイデアを事業計画に反映する」

時間が足りず、じっくり掘り下げることはできませんでした。でも、実際にワークをしてみると「研修会をもとに本を作ろう」とか「サ高住の調査をしよう」「介護相談の駆け込み寺をやろう」など、面白いアイデアがたくさんでてきました。アイデアはいくらでも出るとわかった反面、それを遂行する人や資金の目処がつかなければ、現実の計画に挙げられないことにも気づいたのでした。

## ■会員の主体的参加を！

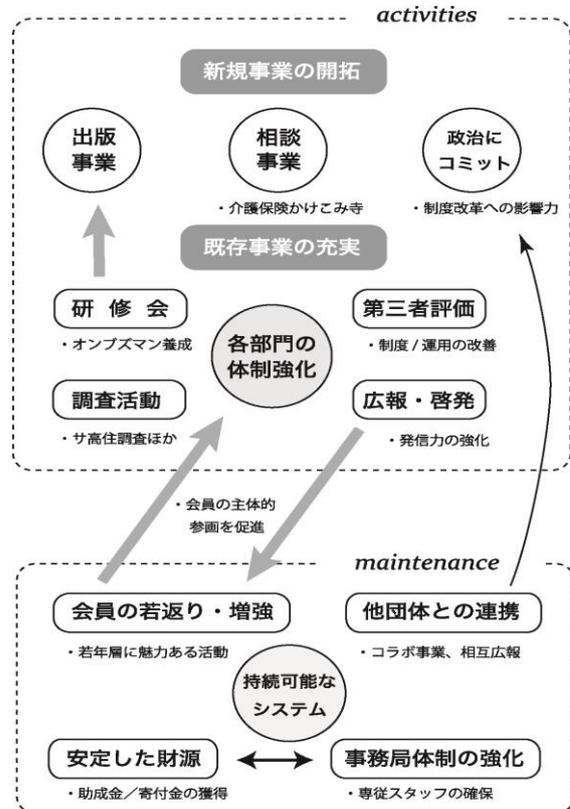
5月20日の総会で事業計画の説明をさせてもらったとき、今年度は会員主体の活動ができるようにしたいと抱負を語りました。10名の理事がいくら歯ざしりしてもできることは限られています。もし90余名の会員が一丸となって事業に参画すれば、私たちの活動も飛躍的に発展するはず。会員みなさんの活動の機会を増やし、積極的な参画をお願いしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

## ■我々はどこへ行くのか？

日常という波間に揉まれていると私たちは時々座標を見失います。かかわる会もまもなく設立後四半世紀を迎えますから、一度立ち止まって、来し方行く末をしっかりと展望したいと思います。会員100人ワークショップ開催のおりにはぜひご参加を！

（正木隆之 記）

かかわる会のよりよい組織と事業とは？



## おせっかい先生の寄り添う医療と介護 ～在宅医療・介護の最前線で～

総  
記  
念  
報  
告

日 時：5月20日（土）15:00～16:30  
会 場：ひと・まち交流館 京都 3階第5会議室  
講 師：渡辺康介氏  
（医療法人社団都会会理事長、渡辺西賀茂診療所院長）  
参加者：69名



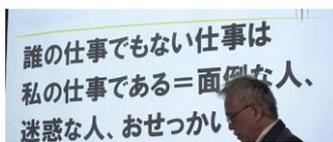
空席を探すのが大変なほどの参加者で会場は熱気にあふれました。京都における在宅医療のパイオニア的存在の先生、おしゃれなお姿です。静かな口調で話し始められました。ドクター・カーは京都第1号。地域で利用者さんを支える支援チームの紹介。これからの看取りの行方、かかりつけ医のこと、訪問看護師さんが重要な役割を担っていること等。そして全体を通して、先生が大事になさっている「おせっかい」とは・・・。

### ◆おせっかいの始まり

1985年、ご夫妻で西賀茂に地域のかかりつけ医院を開設。そこで多くの方から聞いた「最期は住み慣れた家で迎えたい」という願いを叶えるため、おせっかいが基本の在宅医療の模索を始める。1990年、寄り添える医療と介護の総合サポートをめざしサービスの展開に取り組む。

### ◆おせっかいの意味

誰もが「自分の仕事」だと思わない仕事。「誰の仕事でもない仕事」。



やらなくても責任は問われない。けれど、それを見つけたおせっかいな人がそれを片付ける。困っている人がいれば支援する。それが当たり前の社会であって欲しいと説く。

### ◆おせっかいの極み

患者の最期の望みを叶えるおせっかいは、大変でも喜びがあるんだという紹介事例の一つ。病院から連携して在宅を支えてほしいとの依頼があった、42歳女性のお話。望みを聞けば、ドイツ・ニーランドへの一泊旅行。娘さん二人との思い出作りをしたい夢があるとのこと。看護師付き添いで叶える。その後ホスピスに入り、1ヵ月後に亡くなるまで記念の写真をながめてはほほ笑んでいたとのこと。



先生が淡々と読み上げた家族からの会葬礼状。「病を患って4

年半。どんなにつらくとも妻は諦めずに前向きに闘い、私たちに『生きる』という意味を教えてくださいました。自分の足でしっかりと立ち、その時できることを精一杯やる。その姿に何度励まされたかわかりません。・・・静かに息を引き取ったとき皆から溢れ出たのは涙ではなく惜しめない拍手でした。立派でした。奇跡を見せてもらいました。私は妻を誇りに思います」。

### ◆おせっかいは続く

めざす地域の未来は都会（みやこ会）地域交流センターの展開。制度に縛られない支援の提供。いつきても、何時間居ても、食事も提供、子供から高齢者まで、病気の人でも健康な人も地域の人が集う居心地いい場所。ごちゃまぜの居場所づくりだ。（小中敬三 記）



## 参加者の感想・意見より



- 法人理念として『お』大きなお世話を『せ』せっせと励む『つ』つながり大事な『か』介護と『い』医療」をすすめてこられているのが素晴らしいと思いました。
- ドクターカーの存在を知り、驚きました。京都の誇りだと思いました。
- 日本の医療の弱点はホームドクターの制度がないことではないかと思えます。「かかりつけ医』という言葉はあっても住民の健康相談に責任を持ってかかわる制度とはなっておらず、安定した関係がありません。コロナ禍においても、この制度があれば住民はもっと安心して医師の指導が受けられたと思います。ヨーロッパでは70年以前からできています。渡辺西賀茂診療所のようなホームドクターに全国民がかかる制度ができることを切望いたします。
- 終末期の生き方やそれを支える医療や介護、看護の話は、どれも真摯で心ゆすぶられました。自分も一人暮らしの高齢者なので、何を準備し、覚悟すべきか色々考えるところがありました。信頼できる医療者、介護者にめぐり合いたいとつくづく思いました。
- 人生の最期をどう過ごしたいか？ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の重要性を知りました。
- 死に場所難民（死ぬ場所がない!!）が増えていくのでしょうか。住み慣れた自宅や安心できる人に囲まれた場所で人生の最期を迎えられる人が一人でも多く増えるように、自分に何ができるか考えることができました。訪問介護事業者として、看取りチームで自ら役割をはたせるヘルパーの育成の必要性を感じています。

## 4年ぶりの懇親会、にぎやかに開催しました

当会では例年、総会のあとに希望者を募って懇親会を開催し会員同士の交流をはかってきました。ところがコロナ禍のもと、2019年5月を最後に集うことが出来ず寂しい思いが募るばかりでした。5月で新型コロナも5類に分類されたことだし、もうそろそろいいだろうということで5月20日、総会のあと京都駅近くのアサヒビアレストラン「スーパードライ ルネサンス」に場所を移して懇親会を開催しました。

総会で新しい理事に就任された梶政彦さんが乾杯の音頭。一息で飲み干すメンバーもいて、ビールを運ぶウェイトレスさんも忙しそう。笑顔で語りあう声が部屋中にあふれて、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

最後は梶理事長が、新しく執筆された著書の紹介もかねてご挨拶。意気軒高な理事長に惜しめない拍手が送られました。

（冬木美智子 記）



### 会 員 募 集!

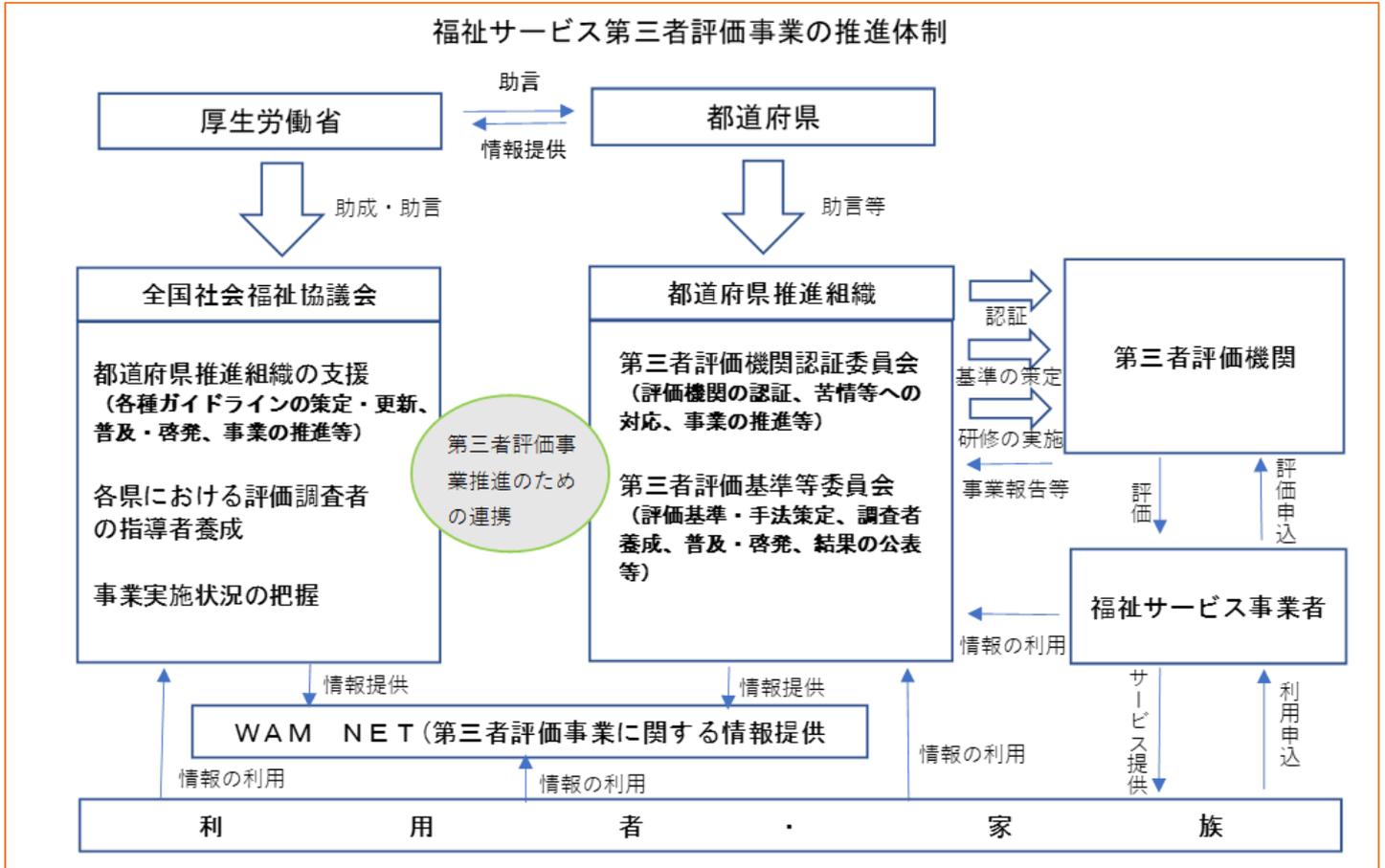
詳しくは右記の  
QRコードから  
どうぞ



～特集～

## 第三者評価事業を振り返る

きょうと介護保険にかかわる会は介護・福祉第三者評価の評価機関として活動しています。2003（平成15）年に第三者評価事業をスタートしており、今年で満20年を迎えます。20年の節目に当たり、今一度初心に戻って、第三者評価事業について振り返ってみたいと思います。



### 全体の枠組み

制度全体を俯瞰すると上の表のようになります。国（厚労省）は全国社会福祉協議会（全社協）に事業運営を委託し、都道府県に設置された「推進組織」が本制度の推進役となっています。推進組織は「第三者評価機関」を認証し、その評価機関が福祉サービス事業所の調査・評価を担うわけです。ちなみに京都府には当会を含めて16の評価機関があります。また推進組織

を見ると、全国47都道府県の約8割(37都道府県)は行政が直接運営しています。京都府は少し特殊で、「公民協働で立ち上げられた任意団体」となっています。上の表に戻りますが、一番下に位置している「利用者・家族」が一番大事で、上の各組織と矢印で結ばれています。制度の大きな目的である「情報提供」の役割を表現しています。

### 創設の背景

第三者評価制度創設の背景を見ると、介護保険制度の成立と深くかかわっていることが分かります。国は1998（平成10）年に福祉サービス第三者評価のあり方について検討をすでに始め、2001（平成13）年には指針ができました。全社協のHPの引用になりますが、制度創設の背

景として「社会福祉法の改革により、福祉サービスは行政による措置であったものが、利用者の選択による利用制度に移行することとなり、福祉サービスの質の向上が求められるようになったため」とあります。

## 制度の意義

第三者評価制度の目的は「福祉サービスの質の向上」と「評価結果の公表（利用者・家族への情報提供）」にあります。福祉サービス事業所が一定の評価基準に基づき自己評価を行い、評価機関の受審を受けることで改善についての「気付き」を得ることが目的であり、制度の意義と言えます。

京都では「受審」ではなく「受診」（ありのままを診る）と表現し、評価は事業所のポジティブアシスト（肯定的支持）であり、評価機関は事業所の「伴走者」としてしています。また評価結果の公表は利用者・家族にとって事業所を選ぶために必要な情報の提供になると同時に、事業所の組織運営やサービス提供内容についての透明性を高める意義があります。

## 制度の課題

しかしながら第三者評価制度の最大の課題は受審率の低さです。2022年3月の全社協の調査結果によると、特別養護老人ホームで4.77%、障がい系（生活介護）では2.13%となっています（いずれも全国の数字）。驚くような数字です。これでは制度の最大の狙いである「情報提供」の役目を果たせません。またごく一部の事業所が受審により質の向上に取り組んでいますが、福祉サービス事業者全体の質の向上に役立っているとは言えなくなります。

さらに2021（令和3）年度の数字ですが、全国受審数（5235件）のうち東京都が約7割

（3694件）を占めており、東京を除くと全国平均の受審率はさらに低くなります。ただ京都は神奈川（371件）に次ぐ受審数（224件）となっており、全国の中ではかなり奮闘していると言えます。

上記の全社協の2022年3月の調査報告書では受審率の低さについて分析し、課題解決に向けた提言も盛り込んでいます。私たちも一評価機関として課題意識を持ちつつ、今後とも「前向きな」事業所と共に歩む伴走者となることで、粛々と第三者評価事業に携わっていきたいと思います。（吉川正義 記）



## 梶理事長が「京都市長物語」を出版

かかわる会の梶宏理事長が、ご自身3冊目の本、「京都市長物語」を出版されました。戦後の選挙によって選ばれた9人の市長を取り上げ、各々の市政におけるトピックスや功罪が綴られています。

間近で見てきた人にしかわからないエピソードも含まれ、市政史を補完する貴重な歴史書といえるでしょう。

それにしても89歳になって、360ページものドキュメントをまとめる梶さんのパワーには脱帽です。6月23日には、かかわる会も後援して「刊行記念の集い」が開かれます。本の購入を希望される方は、下のQRコードで申し込むか、当会にお尋ねください。1冊1500円（送料別）です。



今回出版



2008年出版



2002年出版

## 「畑のある」デイサービスで豊かな毎日

## 晴耕雨読舎見学

第126回  
研修会  
報告

日程：4月10日（月）  
行先：大阪府高槻市市原「晴耕雨読舎」  
参加者：19名



## ●園芸療法に取り組むデイサービスを見学

当会の4月研修会は例年、施設見学を行ってきたが、今回は高槻市市原で、特色あるデイサービスをされている晴耕雨読舎を訪ねた。お話を聞かせてくださったのは所長の石神洋一さん。米国オハイオ大学大学院で環境学を修了後、2001年に法人を立ち上げて園芸療法に取り組んで来られた。どのような取り組みをされているのか、参加者はワクワクしながら当日を迎えた。

JR高槻駅からバスで10数分、「上ノロ」で降りて歩くこと約10分。木でできた手作りの看板に導かれて入ったところは、山のふもとにある平屋建ての建物と、その前に広がる畑や花壇。思わず深呼吸したくなるような、緑に包まれた環境だった。

## ●利用者は「自分の」畑で好きな作物を

晴耕雨読舎の約300坪の畑スペースには、木枠に土を入れた「レイズドベッド（立ち上がり式畑）」がたくさん並んでいた。車いすや足腰の不自由な方でも「自分で」土いじりが楽しめる「レイズドベッド」が一人ひとりに用意されている。利用者さんは自分で決めた作物を植えて育てることができる。

畑の片隅には大きなビニールハウスがあり、中には作業台、大工道具や材木などの材料が揃っていて、大工やワラ仕事の作業場、休憩所として活用されているとのこと。畑で使っているものは、ほぼすべてが手作りとのことだった。

## ●園芸療法で大切にしていること

晴耕雨読舎近くのサロン「摂津峡 Saal」に場所を移して、石神所長のお話を伺った。

## ＜晴耕雨読舎方針＞

- ★利用者さんのやりたいことをやっていただく
- ★利用者さんが、自分でできることはできるだけやっていただく

## ＜園芸療法を通して大切にされていること＞

1. 「自分の畑」をもつ。
2. 自由につくりたいものをつくること、意欲の向上につながる。
3. 自分で予定を立てる、振り返る。
4. 自分で考え意思表示する、写真を使って確認しながら脳を活性化、家族にも利用者の様子を伝える。
5. 「使える」ものをつくる。

持って帰ると家族が喜ぶ作物など、生活に密着した使えるものを作ることが意欲につながる。



## ひとこと

すばらしい自然環境のもとで利用者が生き生きと過ごしておられる様子がうかがえて嬉しくなった研修会だった。

大切にされているのは利用者の意欲の向上、生きがいの実現ということで、それは園芸療法だけではなくすべての介護サービスで尊重されるべきことだろう。そのことを改めて考えさせられた研修会だった。

「摂津響 Saal」はアートサロンとして様々な催しをされているところ。地元野菜を使ったランチはとても美味しく、午後の摂津峡散策も含めて充実した一日を過ごすことができた。

（冬木 美智子記）

## 母の介護について

会員 梶 政彦



母は、父を見送った後、1年足らずで立ち直り、社交ダンスを生きがいにし、脚を骨折しても、パーティーで踊れるようになるまでリハビリした。ところがその脚が、しだいにもつれるようになった。医師に、認知障害と運動障害は進むが治療法はないとの診断を受けた。それからは、どこに行くのも定年になった私が付き添い、料理は私が作るようになった。妻には家事を手伝ってもらい、デイケアにもお世話になった。

ありがたかったのはトイレにひとりで行けたこと（しかも以前から自分で紙パンツに替え、よく紙パンツを人に薦めていた）。

この時期でも週に1回ダンス教室に通い、ダンスパーティーでも幾度か踊った。ダンスシューズに履き替えた瞬間、腰がすっと伸び、音楽に乗って足が動き出した。

しかし家では次第に転びやすくなり、大怪我で病院に運ばれることが度重なった。また、いらつき、怒鳴り、杖を振り回すことも増えた。それを制止する私の手に思わず力が入ってしまうことも出てきた。このままでは、私と母が暴力を振りあうことになると不安に感じ、グループホームにお世話になった。

先日の面会では新しい友達ができ、家に帰る相談を二人でしていると聞かされた。

## 京都に「ケアラー支援条例」をつくろう！

第127回  
研究会  
案内

ケアラーって何？条例はどうして作る？から始まった“京都ケアラーネット”。今後の活動や全国に広まる「ケアラー条例」情報、そして介護ケアをめぐる国の動向についても話していただきます。

日時：6月17日（土）13：30～16：30

会場：ひと・まち交流館京都 3階 第5会議室

講師：津止正敏さん（立命館大学産業社会学部 名誉教授）

参加費：一般 500円 会員 300円



## 講師プロフィール

京都市社会福祉協議会に20年間勤務の後、2001年より立命館大学産業社会学部教授。専門は地域福祉論。男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長。2022年5月、「ケアラー支援条例をつくろう！ネットワーク京都」共同代表の一人。『男が介護する・家族のケアの実態と支援の取り組み（2021年、中公新書）』ほか著書多数。

## 訪問診療のあれこれ。

第128回  
研究会  
案内

自宅で最期を迎えたいという患者さんの声を聴き、お手伝いがしたいと、在宅での看取りをする医院を開業された東先生。その訪問診療28年間の中で“感じたこと、考えたこと”などを伺います。

日時：7月20日（木）15：00～16：30

会場：ひと・まち交流館京都 2階 第1・2会議室

講師：東 伸郎さん（医療法人ひがし医院 院長）

京都市中京区大宮通蛸薬師下がる四坊大宮町160

参加費：一般 500円 会員 300円



## 講師プロフィール

循環器内科の医師として病院勤務を行っていたが、在宅医療を望む声に応じて、訪問診療にスタンスを変え開業。訪問診療を始めて28年になります。

## 会員リレーえっせい 64

かまだ なおふみ  
蒲田 尚史

### 堀田 力さんのこと

堀田さんが3月末で「さわやか福祉財団」の会長と理事を退かれた。

30年前、京都で堀田さんの講演を聴き、感動。1996年から四半世紀余り、職員、ボランティアとして、お仕えした。

最初に取り組んだのが、サラリーマンの社会参加による人材育成。力不足の為、ゴールには未到達。

ただ、東日本大震災の後、被災地に従業員をボランティア派遣した某大手商社社長の「これは若手従業員の人材育成の一環でもある」との発言を聞き、「10年を経て、やっと経営トップに理解して貰えたか」といった感慨を覚えたのを思い出す。

さて、堀田さんと言えば、戦後世代には「元総理を論告求刑したカミソリ検事。出世の道を自ら断ち、福祉の世界に転身した稀有な人」と受け止められているが、身近で接していると、ボランティア、お年寄り、女性、子供に優しい反面、部下には文字通り「秋霜烈日」、仕事に厳しい上司であった。老生も何度かその指導を受けたが、「耐えてなんぼ」の世界で鍛えられてきた卒サラにとっては落ち込む暇なし。時には馬耳東風を決め込んだ。



堀田 力氏

東日本大震災直後の山手線一周・早朝募金活動で、毎日休みなく先頭に立って人々に頭を下げておられる堀田さんの姿も忘れられない。それを知った多くの先輩ボランティアが活動に参加して下さった。

NPO法、介護保険法、公益法人制度改革等々、どれをとっても堀田さん抜きには実現しなかったであろう。

老生がとても真似できないと思ったのは、その博覧強記ぶり。まるで頭の中に3Dファイルが埋め込まれているかの如く、会議中に昔の案件を引き合いに出され、部下として冷や汗をかくことが何度かあった。

なぜこんな神業が可能なのか、自分なりに出した答えは「重要案件以外は即忘却」、今流に言えば「知的断捨離」の実践である。もっとも、何が重要か、その判断が難しい。やはり自分には無理だと観念した次第。

以上、縷々申し述べましたが、「堀田さん、本当にありがとうございました」。

(元さわやか福祉財団 社会参加システム推進グループリーダー)

#### 編集後記

最近「チャットGPT」の話が巷の話題になっている。先日も編集会議の折、その話になった。利用している人からは大変面白いし、参考になるとの事なので一度試してみることにした。

パソコンでの設定は意外と簡単でアドレス、電話番号等を登録するだけですぐに無料で始められる。早速「介護保険の京都の第三者評価とは」などの文章を打ち込むと瞬時に答えが帰ってくる。これまでの検索と違い質問に対する答えがその場です上がってくるのがすごい。お試しされてはいかがですか。

(K・T)

#### シルバー川柳

恋かなと思っていいたら不整脈

中身より字の大きさを選ぶ本

私だけ伴侶がいると妻嘆く

出典：(公社)全国有料老人ホーム協会



#### 新入会員紹介

森 昭夫さん	4月入会
海藤 満子さん	5月入会
渡邊 恵子さん	5月入会